

「器械運動(跳び箱運動)」 ～ 頭はね跳びの My Point は? ～

本単元で育成する資質・能力**(学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性**

- 1 日時 令和2年9月18日 13:00～13:50
- 2 学年 第3学年1組 (男子21名 つばさ3名 合計24名)
- 3 場所 体育館
- 4 単元について

○ 教材観

本単元は、マット・鉄棒・平均台・跳び箱を使った「技」によって構成されている運動であり、どの種目にも特性に応じて多くの「技」がある。自己の能力に適した技に挑戦しその技ができる楽しさや喜びを味わうことができる。

跳び箱運動では、跳び箱上で自己の体の動かし方や練習の方法を学習し工夫することが大切である。回転系、切り返し系などの技1つ1つに難度があり、その中から自己の能力に適した技を選択し練習をすることができる。平衡感覚や柔軟性など運動の基本となる能力を身につけることができる。

しかし跳び箱運動は、「好き」「嫌い」がはっきりしているため、「できない」と苦手意識を持ちやすい単元でもある。そのため、仲間と協力し合うことによって、互いに指摘し、自己の課題に応じた練習の工夫を共に行うことにより、グループ内での喜びや達成感を味わうことができる。

○ 生徒観

本学級の生徒は、生徒アンケート(22名に実施)では、「外に出て運動するなどして体を動かしている。」という問いに「よく」「やや」と答えた生徒が20人(約90%)であるが、「あまり」「まったく」と答えた生徒が2人(約10%)であった。このことから、運動習慣が身につけている生徒が大半だが、否定的な生徒(運動が苦手)な生徒がいることが分かる。

また、「自分はやればできると思う」という問いに対しては、「よく」と答えた生徒は10人(約45%)であり、「やや」と答えた生徒は12人(約55%)であった。このことから、授業に対して意欲的で、自分の力を十分に発揮しようとする生徒は多いが、運動に対する苦手意識をぬぐうことができず、失敗を恐れて本気で取り組むことができない様子もうかがえる。基礎的な技能の習得を図り、グループ学習で互いのよさを認め合うことで生徒の学習に対する意欲を高めていきたい。

○ 指導観

指導に当たっては、器械運動は「できる」「できない」の結果が明確にあらわれる種目である。「できた」という喜びを味わわせるためにも、それぞれ自己の能力に適した技を選択し、個々の技ができるようにするとともに、よりよくできるように練習を工夫しながら技能を高めさせていきたい。器械・器具を用いて学習したり練習したりしていくことから、仲間と協力しあうとともに器械・器具を点検し安全を確認しながら練習することを常に心がけさせる。

また、生徒のつまづきを分析し、その克服のための練習の場の設定を工夫したり、ペア学習やグループ学習を有効に使い、より楽しく意欲的に取り組めるように指導したい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で (ミニホワイトボード等を使用して)	(話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		(話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

- 技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。(技能)
- 跳び箱運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする。(関心・意欲・態度)
- 課題に応じて、技をよりよくできるようにするためのポイントを考え、伝えることができる。(思考・判断)
- 技の名称や行い方、関連して高まる体力を理解できるようにする。(知識、思考・判断)

7 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱運動に積極的に取り組もうとしている。 ・仲間のよい演技を認め、互いに教え会おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技の合理的な動き方のポイントを身につけている。 ・仲間と学習する場面で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて行うことができる。 ・切り返し系や回転系の滑らかに安定した基本的な技、条件をかえた技、発展技のいずれかができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技の名称や行い方、関連して高まる体力について理解している。

8 指導計画（全7時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評 価	
			関意	思判	技能	知理	評価規準	資質・能力（評価方法）
課題の設定	1	オリエンテーション 単元の目標と学習の進め方の確認 基本的な技能の再確認（1時間）	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱運動に積極的に取り組もうとしている。 ・技の名称や行い方、関連して高まる体力について理解している。 	【主体性】 （行動観察） （ワークシート）
	単元を貫く問い（探究課題の萌芽） 各技の完成度を高めるためのポイントはなんだろうか？							
情報収集・整理・課題練習	2	提示された技やその練習方法を体験し、自分の課題を見つけ、解決方法を見つける。 （切り返し系・回転系） 【本時2／2】		◎			<ul style="list-style-type: none"> ・技の合理的な動き方のポイントを身につけている。 ・仲間と学習する場面で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。 	【主体性】 【コミュニケーション能力】 （ワークシート） （行動観察）
	3	課題を解決しながら、自己の課題に応じた練習 （2時間）			○		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて行うことができる。 ・仲間と学習する場面で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。 	【表現力】 【コミュニケーション能力】 （ワークシート） （行動観察）
整理・課題練習	4	実技テストに向けた課題練習 （1時間）	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ・技の名称や行い方、関連して高まる体力について理解している。 ・仲間のよい演技を認め、互いに教え会おうとしている。 	【主体性】 【表現力】 （ワークシート） （行動観察）

まとめ・表現・振り返り	5	実技テスト (1時間)		◎	○	・繰り返し系や回転系の滑らかに安定した基本的な技，条件をかえた技，発展技のいずれかができる。 ・技の合理的な動き方のポイントを身につけている。	【表現力】 (行動観察) (実技テスト)
-------------	---	----------------	--	---	---	--	----------------------------

単元を貫く問いの終結

技の合理的なポイントが分かり，自己の課題を見つけ，よりよい演技ができる。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○課題に応じて，技をよりよくできるようにするためのポイントを考え，伝えることができる。

(2) 本時の評価規準

- ・技の合理的な動き方のポイントを身につけている。
- ・仲間と学習する場面で，仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。

(3) 準備物

- ・跳び箱・マット・TV・PC・タブレット・ワークシート

(4) 学習の流れ (3時間目/全7時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 既習事項の確認。[10分]		
集合・あいさつ 準備運動 柔軟体操・補強運動	◇柔軟体操をするときは，息を吐きながら行うことを意識させる。 ◆動きの具体的なポイントを伝える	
2 本時の学習課題を設定する。[3分]		
本時の学習課題を設定する。	◇動画を使って，技のイメージを持たせる。	
学習課題 技の完成度を高めるためにはどうすればいいのか		
頭はね跳びの映像を視聴する	◆映像を活用し，生徒が主体的に活動できるよう，「解決したい」或いは「達成したい」学習課題を設定するようにする。	
3 本時のねらいを確認する。[2分]		
ねらい 頭はね跳びの My Point を探し，説明できる。		

導入の工夫

単元を貫く問い

4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[15分]		
<p>自分の練習場所に移動し、グループを作って練習する。 グループで練習し、マイポイントや相手の課題を確認し伝える。</p>	<p>◇パートナーの演技を見るとき視点の説明する。 ◇安全に留意して練習するよう注意する。 ◇見る視点を明確にし、チェックポイントをつける。 ◆練習方法が適切かどうか考えることができる声かけを行う。 ◆苦手な生徒は段階的に練習させるようにする。 ◆補助につけられるようにする。</p>	<p>仲間と学習する場面で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。(思考・判断) ★コミュニケーション能力【ワークシート・行動観察】</p>
5 課題解決について発表をする。[5分]		
<p>グループで見つけたポイントや課題を発表する。</p>	<p>◇ワークシートやチェックポイントを元に発表できるようにする。</p>	<p>仲間と学習する場面で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。(思考・判断) ★コミュニケーション能力【ワークシート・行動観察】</p>
<p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価 手より前方に額をつける。 体のはねと腕の突き放しのタイミングを合わせる。 ひざを伸ばすことで大きく回ることができる。 頭より腰が前に出たからはねる動作をする。</p> <p>B評価 (課題) 踏切が弱く、腰とおしりが浮かんでいなかった。 踏切と着手が同時になってしまっていた。 着手位置と頭の位置が近すぎた。</p>		
6 学習のまとめをする。[10分]		
<p>他のグループや自分のグループの課題や気づき・ポイントを元に練習する。</p>	<p>◇安全に留意して練習するよう注意する。 ◆練習方法が適切かどうか考えることができる声かけを行う。 ◆苦手な生徒は段階的に練習させるようにする。</p>	
7 本時を振り返り、次時につなげる。[5分]		
<p>○振り返りを書く。</p>		
<p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭はね跳びは手の突き放しと体のはねのタイミングが重要だと分かった。 ・膝を伸ばすことで回転が大きくなると分かった。 ・着手位置と額をつける位置が重要なので気をつけていきたい。 		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	技のポイントを見つけて伝え、教えあうことができた。
B（合格）	技のポイントを見つけ、伝えることができた。
C（乗り越えさせたい実態）	技のポイントを探し、説明することができない。

（5）板書計画

<p>単元名 器械運動（跳び箱運動）～頭はね跳びの MyPoint は？～</p> <p>学習課題 技の完成度を高めるためにはどうすればいいか</p> <p>ねらい 頭はね跳びの MyPoint を探し、説明できる</p> <p>MyPoint 手より前方に額をつける。 体のはねと腕の突き放しのタイミングを合わせる。 ひざを伸ばすことで大きく回ることができる。 頭より腰が前に出てからはねる動作をする。</p> <p>課題 踏切が弱く、腰とおしりが浮かんでいなかった。 踏切と着手が同時になってしまっていた。 着手位置と頭の位置が近すぎた。</p>	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭はね跳びは手の突き放しと体のはねのタイミングが重要だと分かった。 ・膝を伸ばすことで回転が大きくなると分かった。 ・着手位置と額をつける位置が重要なので気をつけていきたい。
---	---